

第71回 摂大農学セミナー



主催：摂南大学農学部先端アグリ研究所

連絡先：摂南大学農学部事務室

SETSUNAN.Obu@josho.ac.jp

072-896-6000

摂南大学農学部の研究成果を広く知ってもらい、産官学の連携を推進するために**摂大農学セミナー**を開催します。無料・一般公開のセミナーとして開催しております。本セミナーは摂南大学農学部を会場にした公開セミナー、またはオンラインによるライブ配信で開催いたします。開催方法は、セミナーごとにお知らせします。
多くの方のご参加をお待ちしております。

【開催日時】 2025 年 9 月 22 日（月）15:00～16:30

【開催方法】 無料・一般公開

【視聴方法】 対面 / **Zoom** によるライブ配信

【発信会場】 8 号館 8303 教室

【プログラム】

15:00-15:05 はじめに

先端アグリ研究所 所長 北川 太一

15:05-15:45 **REDs**（相対的エネルギー不足）から考える、
女性アスリートの健康と月経管理

食品栄養学科 助教 諸井 美樹
（座長 藤林 真美）

15:45-16:25 生産者に「値上げ」が届かない？！

～食肉の価格形成を読み解く～

食農ビジネス学科 講師 戴 容秦思
（座長 浦出 俊和）

16:30-16:35 おわりに

オンラインセミナー参加方法

- ・ 対面/オンラインのライブ配信（Zoom）で開催します。
- ・ 次のHP よりお申し込みください。
<https://forms.office.com/r/Fdx02sKS2f>
- ・ お申し込み後、視聴方法についてメールでご連絡いたします。
- ・ 詳しくは摂南大学農学部 HP(<https://www.setsunan.ac.jp/agri/>)をご覧ください。



REDs（相対的エネルギー不足）から考える女性アスリートの健康と月経管理

食品栄養学科・助教 諸井 美樹

【講演要旨】

近年、アスリートの健康とパフォーマンスの両立を支える観点から、相対的エネルギー不足（Relative Energy Deficiency in Sport: REDs）という概念が注目されています。REDsとは、総エネルギー消費量に対して総エネルギー摂取量が不足し、負のエネルギーバランスが生じることで、身体の多様な生理機能に障害を及ぼす状態を指します。特に女性アスリートにおいては、従来から知られている「女性アスリートの三主徴（Female Athlete Triad）」である利用可能エネルギー不足、視床下部性無月経、骨粗鬆症に加えて、REDsは内分泌系や免疫系、代謝、心理面などを含む、より包括的な健康概念として提唱されています(1, 2)。

本講演では、高校生の女性アスリートを対象に実施した横断的な質問紙調査の結果をご紹介します。調査では、月経周期や随伴症状（PMS や月経困難症など）、食事・運動習慣、体組成、疲労骨折の既往歴などに関する情報を収集し、競技種目ごとにFATや月経に関する指標を比較しました。統計解析にはカイ二乗検定を用いて、競技特性による傾向の違いを明らかにすることを目的としました。その結果、審美系や持久系の競技において、月経異常の経験率が高いことがわかりました。さらに、月経随伴症状（腹痛、頭痛、倦怠感、精神的変調など）が競技の継続やパフォーマンスに影響を及ぼしている可能性も示唆されました。

これらの結果から、若年女性アスリートにおける健康課題の早期発見には、月経や身体の不調に関する日常的なセルフモニタリングが有効であると考えられます。また、競技の特性や発育段階に応じた支援体制の整備が、将来的なパフォーマンス維持と健康保持の両立に向けて重要な課題となります。REDsは外見や数値ではとらえにくい「見えにくい不調」であり、本人や指導者、医療従事者の間でその理解を深めることが求められます。本講演では、これらの調査結果に基づき、女性アスリートに特有の健康課題の実態、競技別の傾向、支援のあり方についてお話しいたします。

参考文献

- (1) Mountjoy, M., Sundgot-Borgen, J., Burke, L., et al. (2014). The IOC consensus statement: beyond the Female Athlete Triad-Relative Energy Deficiency in Sport (RED-S). *British Journal of Sports Medicine*, 48(7), 491-497.
- (2) De Souza, M. J., Nattiv, A., Joy, E., et al. (2014). 2014 Female Athlete Triad Coalition Consensus Statement on Treatment and Return to Play of the Female Athlete Triad. *British Journal of Sports Medicine*, 48(4), 289.

生産者に「値上げ」が届かない?!～食肉の価格形成を読み解く～

食農ビジネス学科・講師 戴 容秦思

【講演要旨】

最近、スーパーなどで食品の値上がりが続いていると感じる方は多いのではないのでしょうか。その背景には原材料費やエネルギー価格の高騰があります。しかし、ここで一つの疑問が生じます。商品の販売価格が上がっているのなら、その値上げ分は、生産者である農家の方々にきちんと届いているのでしょうか。

データによれば、生産にかかる費用が 100 円上昇したとしても、特に農業分野では、販売価格に上乗せできているのは 23 円程度に過ぎないという厳しい実態が明らかになっています。一方で、食品メーカーや卸売業、小売業はそれよりも高い割合で価格転嫁を実現しており、生産者がコスト上昇の負担を最も重く背負わされている構造が浮かび上がります。なぜ生産者に「値上げ」が届かないのでしょうか。この講演では、私たちの食卓に欠かせない「食肉」を題材に、その複雑な価格の決まり方を読み解き、生産者の努力が報われにくい構造の謎に迫ります。

食肉は、生産者から私たちの食卓に届くまで、多くの段階を経ています。家畜は「と畜場」で大きな塊の「枝肉」となり、それが部位ごとに切り分けられた「部分肉」へ、そして最終的に店頭で並ぶ「精肉」へと姿を変えていきます。食肉の価格はこの流通過程で段階的に決まりますが、問題は、各段階での価格決定が必ずしも生産コストを素直に反映する仕組みになっていない点です。例えば、牛肉価格の起点となる枝肉価格は、主に卸売市場のセリで決まりますが、重視されるのは生産コストではなく、「サシ（霜降り）」の入り具合といった格付けです。生産者が飼料代の高騰に直面していても、そのコストが直接反映されるわけではなく、市場の評価基準によって値段が付けられてしまうのです。

さらに、小売段階では価格の決まり方はより複雑になります。スーパーなどは牛肉、豚肉、鶏肉といった多様な商品を扱うため、利益確保のために「マージンミックス」という手法を用います。これは、利益率の異なる商品を組み合わせ、店全体として目標の利益を達成する考え方です。例えば、値上がりして売れ行きが心配な牛肉の価格を抑える一方、比較的安価な鶏肉や豚肉で利益を調整する、といった具合です。

消費者の節約志向が高まる中、小売店は客離れを恐れ、できるだけ値上げを回避しようと努めます。その結果、生産コストの上昇分は複雑な流通過程の中で吸収されてしまい、最も交渉力の弱い生産者に「しわ寄せ」がいくという構造が生まれているのです。このように食肉の価格は、生産から消費に至るまでの多段階の流通過程、各段階での独特な値決め方法、そして異なる食肉同士の競争関係の中で形成されています。この講演が、食肉価格の裏側にある構造を理解し、日本の食と農の未来を考える一助となれば幸いです。

注：本講演の内容は、以下の論文から抜粋したものとなります。

戴容秦思「畜産物の需給構造と価格転嫁の問題―食肉を中心に―」『農業市場研究』33 巻 3 号（通巻 131 号）、2024 年 12 月、pp. 24-39